

武雄市立武雄中学校学校便り

叶武



NO. 16 令和2年10月29日
〒843-0024
武雄市武雄町大字富岡11606番地
TEL 0954-22-4105
文責 校長 熊野辰未

学校教育目標 「高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成」

《すばらしい体育大会でした。そして、一回り大きくたくましく成長しました。総合優勝 紅軍、応援優勝 紅軍》

「獅子奮迅 仲間と共に突っ走れ」を大会テーマに10月18日（日）に第72回武雄中学校体育大会を開催しました。10月6日に結団式を行い、10月7日から本格的に準備・練習に取り組みました。大会当日は、すばらしい天候にも恵まれ実施することができました。わずか7日間の練習期間ではありましたが、生徒たちは、熱き想いを胸に団結し、最後まで精一杯駆け抜け、応援し、一回り大きくたくましく成長してくれたものと思います。応援合戦では、団員のまとまりの良さを見せつけてくれました。すばらしい体育大会となりました。今年度は、コロナ禍の中でもあり、開催そのものが危ぶまれていたので、特に3年生にとっては、中学校最後の体育大会でもあり、思い出に深く残るものとなったのではないかと思います。保護者の皆様の早朝からのご協力、ご参観、ご声援、誠にありがとうございました。



《体育大会を終えて 団長の声》

実行委員長と団長5名に体育大会を終えて印象に残ったことや思ったこと、感じたことなどを尋ねてみました。以下紹介します。生徒たちも一人一人何かを感じとってくれたことと思います。

○ 僕は、体育大会の実行委員長をして学んだことがたくさんありました。まず、一つ目に団体をまとめることです。僕は、団の副団長もしていましたが、団をまとめることはもちろん、全校をまとめることは、とても難しく、思い通りにいかない部分もありましたが、リーダーの仲間と試行錯誤し、協力してまとめることができました。何かの実行委員長になって大きな団体をまとめるということは、これからのかもしれないのでとてもいい経験になりました。

二つ目は、周りの人と協力することの大切さです。一人でできないことも協力する事でできるということが分かりました。一人で最後までやり切るのもよいと思いますが、みんなで協力してやり切ったときの達成感は素晴らしいものでした。この他にもたくさんのことを学びました。

僕は、実行委員長の活動を通して、あらためて一生懸命物事に取り組むことはカッコいいなと思いました。今回の活動を生かし、これからの学校生活でも生徒の手本となるような人間になろうと思います。本当にとっても良い経験になりました。

実行委員長 福田漣太郎

○ 私は、今回の体育大会で、二つの事を学びました。一つ目は、団員を引っ張る力です。団員を引っ張るのは想像以上に大変でした。でも一人一人が本番に近づくとつれてまとまっていってとっても嬉しかったです。

二つ目は、計画を立てる大切さです。団員に教える応援の振り付け、歌、動きすべて教えるのも難しくて、また、1回1回の練習で教えるものも違うので余計に計画を立てることの大切さが分かりました。コロナウィルス禍の中、例年より遅れて時間も短縮され、騎馬戦や綱引きなど毎年盛り上がる種目は、できなかったけど、体育大会で最高な思い出ができたので本当に良かったです。



青軍団長 原口 結愛

○ 私は、今回の体育大会を通し、様々な事を学び、感じる事が出来ました。今年の体育大会では、「団長」という立場でたくさん悩んだりすることもありました。団員にどう伝えるのか、リーダーをどう動かすのか、など初めてのことを一気にやるとなると、どこから手を付けていけばいいのか分からないなど、初めからつまづく事もありました。その中でも周りにいてくれたリーダーと力を合わせる事で少しずつ前に進むことができました。そこで、私は、「仲間と協力する事の大切さ」や「仲間がいる事のありがたさ」を学び、感じる事が出来ました。また、協力し、達成することで成功したときの楽しさも味わうことができました。

今年の体育大会は、例年に比べ競技数も少なく軍で戦う種目が少なかったです。ですが、団員もリーダーも例年よりさらに団結することが出来てとても素晴らしい体育大会を造り上げることができたと思います。

「獅子奮迅 仲間と共に突っ走れ」をテーマとし、一人一人が全力で取り組み、全力で楽しめた体育大会を造り上げることができました。そして、応援の賞も総合優勝も結果は決まってしまいましたが、どの軍も「私の軍が一番だ」と思えるような体育大会になったと思います。また、この体育大会で身につけた力をこれからの学校生活や受験に向けて生かして欲しいし、生かしていきたいです。



黄軍団長 大亀 真葵

○ 体育大会を終えて、僕は、とてもいい経験をしたなと思います。その理由としては、やってみないと分からない大変さが分かったからです。まず、最初に思った事が、人をまとめる事の大変さです。人が多ければ多いほど、人をまとめる事の大変さを、実感しました。

軍を背負って前に立つことは、大変なことが多く、悩むこともあるけど、リーダー達と協力するためには人間関係が大事だということも団長をしてみても実感しました。短い期間の練習の中で、白軍の人には、変更点が多く大変だったと思うけれど、協力してくれていたことが嬉しかったです。また、例年通りに競技をおこなうことはできなかったけれども、まず体育大会をできたことに感謝します。

今年は、騎馬戦ができなかったけれどもその分、クラス対抗リレーや軍対抗リレーでクラスの人や軍の人と協力して走り切れたのでよかったです。

今年は、残念な事が多かったけれども、体育大会でいろいろな大切なことや大変なことが分かりました。

今回、団長になって学んだことを日々の生活や今後の生活で生かしていきたいです。



白軍団長 末藤 優太

○ 体育大会のリーダーになりたい人が集められた時もクラスで体育大会のリーダーになりたいという決意表明をしたときも、まだリーダーになりたいだけで、団長は頭にあっただけになりたいとは思っていませんでした。ですが松瀬先生から団長と伝えられた時、すごくドキドキしたし、嬉しかったけど、100人以上の人を一人ですべてまとめていけるのが本当に不安でした。ですが、しっかり気を引き締めて、なったからには優勝だけを目指して頑張ろうと思った事を思い出します。結団式が終わってよいよ応援練習となった時、やっぱり自信がなくて、へによへによしていたと思います。ですが、団員のみんなやリーダーが熱い眼差しで見ているのを感じた時、私が一番しっかりして、みんなを優勝に導かないといけないと強く決心してたくさんの練習を頑張れました。キャプテンの時と同じで先頭に立ったら、気持ちがあぐつと力が入ると感じました。

けどやっぱり、何でもうまくいくとは限らないので、たくさん焦りました。でも団長をやめたいと思うことは本当に一切ありませんでした。そして紅軍の担当をしてくださる先生方や団員、友達、リーダーからの応援は、とてつもなく心にしみて練習から本番までを思い返してみても焦りはするけど、つらかったり泣きたくなったり、苦しくなることはありませんでした。心の底から感謝をしているし一人じゃないということ、たくさんの方が支えてくださることのすごさと温かさを知ることができました。

初めは、もちろん3年生は同じクラスだし、最後の体育大会なので気合い十分で頑張ったと思うんですが、1、2年生はクラスも違うし、初対面の人もあるかもしれないという状態だったので、少しまとめるのを頑張らないといけないなと思っていました。けど、気付いたのは、私たちリーダーや3年生が全力ですれば他の人たちもついてきてくれることがわかり、軍全体が仲良く、絆を深められました。また、周りの人が一生懸命だから自分も頑張らないといけないと感じる人が多かったと思います。実際に私も同じで、3年生がとても頑張っていて、「やばい、私も負けてられない」と感じました。お互いがお互いを支え合えるいい関係になれたと思います。

今年の体育大会は、今までで一番心に残ると思います。何といっても私の大好きな紅軍でW優勝をできたことが、とっても幸せです。一人じゃ絶対にできなかつたし、たとえ結果がどうであれ後悔はないです。けど本当に楽しくて、たくさん笑って、時にはすごく焦りすぎて何回か夢に出てきたけど充実していて大人数が一つになれる喜びを知れて、無理だけど午前中しかできなかった事を忘れるくらい白熱した体育大会からその前の練習期間までもう一度体感したいです。それくらい5軍があるから成り立つ最高の体育大会でした！



紅軍団長 堀田 渚

○ 今年の体育大会ではW優勝をとることはできなかったけれどもどの軍より楽しむことはできたと思うので、一生心に残ると思います。応援では、僕の名前にかけて「クレヨンしんちゃん」でいって、踊りも楽しかったのでいい雰囲気です。応援に取り組むことが出来ました。

体育大会を通して学んだことは、みんなを引っ張っていくということです。これを高校、社会人になってもやっていきたいと思っています。

クラス競技では、リレーでぼくがアンカーで優勝をすることができたので、とても嬉しかったです。大会テーマに沿った「仲間と共に突っ走れ」ができたと思います。団対抗リレーでは惜しくも最下位でしたがみんな楽しそうでした。コロナ禍でできないと思っていた体育大会が先生方、保護者のみなさんのおかげでできました。体育大会とても楽しかったです。



緑軍団長 山口慎太郎

